

「一生懸命」が心を揺さぶる

校 長 武井 正明

いよいよ今週末の音楽祭に向けて、追い込みの一週間が始まった。

昼休みは、早速校長室の下から、大きな男声が響いてきた。思わず飛び出すと1年2組「旅立ちの時」がパート練習中。人数からは想像できないくらい大きな音量だ。担任の本間先生も、一緒に個別に音を取って歌っている。



2年1組「茜色の約束」いきものがかりの水野良樹の作詞作曲。彼が14歳の時、初めて玉置浩二を生で聴いて感銘と影響を受けたと聞く。この曲はボーカル吉岡聖恵の兄の結婚式で披露された。

1組のハーモニーが優しく響く。途中から自分の口の開け具合をタブレットで確認しながら練習していた。あまりに良かったので、5限の終わりに聴かせていただいた。

終学活前の練習。2年4組「今」

目まぐるしく曲の展開が変わり、終盤にかけて手拍子の繰り返しから、どんどん声が重なって、盛り上がり、最後はドキッとさせられる。

合唱することの楽しさを、4組の生徒達がいかに聴衆に伝えられるか。



そして1年1組「変わらないもの」

ある女子生徒は、目いっぱい息を大きく吸い込んだ勢いで、後ろにひっくり返りそうになりながら、一生懸命歌っていた。

こういう一途さが、可愛いなあ…。

歌い終わって池上先生の、どうですか？に気の利いた言葉が浮かばなかった。でも言葉は不要だ。一生懸命になれるって素晴らしい。

3年4組「友～旅立ちの時」…男子の声が大きく、大きく響く。そこにきれいな女声がかっってくる。美しいハーモニーがピアノと融合する。さすが3年だ。完成度が高い。

こうして廻っていると、感動は声だけではない。君たちの「一生懸命」が体全部を楽器にする。それが聴き手の心を揺さぶるのだ。

